

日時 : 2011年2月25日(金) 13:00 ~ 17:00
場所 : 塗料報知新聞社 会議室
出席者 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、早川政男(第一塗装工業(株))、小泉栄(株)小泉塗装工業所)
杉山博英(アネスト岩田(株))、木下稔夫((地独)東京都立産業技術研究センター)、
島田哲也(旭サナック(株))
アドバイザー:坂井秀也(日本工業塗装協同組合連合会技術顧問)、
平野克己(日本塗装機械工業会(CEMA))、倉持保雄(日本工業塗装協同組合連合会)、
事務局:有馬弘純(塗料報知新聞社)

10名 敬称略

***** 議題 *****

1. サポイン21部会 : 「塗装」を第21番目の「特定ものづくり基盤技術」分野に認定してもらう活動

(1) 2011年2月21日 関東経済産業局との打合せ報告

出席した(地独)東京都立産業技術研究センター木下氏、(有)久保井塗装工業所窪井氏より、「塗装に係る技術における特定ものづくり基盤技術高度化指針」として高度化目標、達成へ向けた実施方法、配慮すべき事項にまとめた資料などを提出し、今後の進め方など説明を受けた。

(2) 打ち合わせ内容のまとめ

① 川下産業分野と課題の追加

- ・「医療(機器)・福祉(機器)等」といった川下産業の追加。
- ・当該産業分野に係わる川下ニーズと高度化目標の抽出。
- ・「鉄道・航空・船舶等」の分野を「鉄道・航空宇宙・船舶等」と航空宇宙関連の事例抽出の追加。

② 研究開発事例の追加

- 先に掲げた「医療(機器)・福祉(機器)等」、「鉄道・航空宇宙・船舶等」に係わる中小企業等の具体的な研究開発事例の追加。
- ・「ナノ」に係わる研究開発事例の提示。

③ 事業化(売り上げ)についての明確な回答の用意

- ・サポインでは1億円の研究開発費が出されることもあり、当該研究開発費の投資に対して事業化によるリターンがどの程度となるのか、売り上げ増大等の見込みなどの提示。
- ・今後質問が出た場合を考え、回答を予め準備する。
- ・政府は新成長戦略・産業構造ビジョンを掲げており、これにマッチングすることがベターである。

④ 有識者の協力を得る体制の構築

- ・各有識者から協力を得られる体制の構築。
- ・(地独)東京都立産業技術研究センター、(独)産業技術総合研究所を含め、多くの有識者をリストアップ。

⑤ 業界構造のピラミッド図の作成について

- ・業界構造を一目で見渡すことのできる資料(パワーポイント1ページの図)の準備。

⑥ 経済産業省製造産業局化へのアプローチ手法について

・「サポイン 21 分野目に組み込む必要性」と題し、中小企業の「フレキシブル性」のアピールが必要。

たとえば、高機能の塗料が開発されたことと、それを「うまく塗る」ということは別問題であり、新しい塗料を、様々な工夫を用いて「うまく塗る」ということが中小企業の技術である。などのように様々な要素が組み合わさっての「塗装技術」であることをアピールする。

・経済産業省製造産業局化以外に中小企業庁へも説明会を実施する。

⑦ 2008 年 7 月 30 日資料確認

「塗装」を第 21 番目の「特定ものづくり基盤技術」分野に認定を検討することになった経緯を見直したところ、中小企業政策審議会経営支援部会に所属している上野 保氏(東成エレクトロニクス株式会社社長)からの要請であったことが分かり、当会の活動への再度ご協力をお願いすることとした。

など各①～⑥に対し、スケジュールと担当者を決定し対応することとなった。

(3)スケジュールと担当者

4 月末に経済産業省製造産業局化への説明(陳情)を行うため下記実施内容とスケジュールにて情報の収集とまとめを行うこととした。

	項目	実施内容	担当
①	川下産業分野と課題の追加	回答書式の作成。	木下氏
②	研究開発事例の追加	医療、福祉の分野を加え、回答書式に記載し、木下氏へメールにて提出する。	全員
③	事業化の回答		
④	有識者の協力体制構築	日本塗装技術協会の役員リストから有識者をピックアップし、工業塗装高度化協議会山崎会長より協力依頼を行う。	窪井氏
		有識者肩書き、専門、分野などをまとめる。	倉持氏
		(独)産業技術総合研究所への協力依頼。	窪井氏
		地方の塗装研究者への協力依頼。	木下氏
⑤	業界構造の図の作成	2つ程原案を作成し、次回会合にて協議する。	平野氏
⑥	化学課へのアプローチ	打合せ日程を次回会合にて決定する。 上記書類を 4 月末までに整える。	全員
		アプローチメンバー代表を工業塗装高度化協議会山崎会長とする。 メンバー候補:窪井氏、木下氏、倉持氏 工業塗装高度化協議会メンバーや有識者も参加する。	窪井氏
⑦	上野 保氏との協力に向けて	工業塗装高度化協議会の活動を伝え、サポイン認定に向けての協力依頼を行う。	小泉氏 窪井氏

スケジュール

項目	2 月	3 月	4 月
①	アイデア 創出	3/18 までに提出	収集案の まとめ
②			
③			
④	工業塗装高度化協議会山崎会長及び各担当にて有識者への協力を申し入れる。		4 月末 経済産業省製造産業局化、 中小企業庁へ 説明会実施
⑤	3 月 4 日までに原案を作成し、全員へ配布し。次回会合までに意見収集を行う。		
⑥			
⑦	2/25 確認	3 月上旬に挨拶 当会のサポイン活動を紹介し、賛同、及び協力を得る。	

(4) 行政へ提出する書類について

行政へ提出する書類について日本工業塗装協同組合連合会倉持氏よりアドバイスがされた。

塗装技術のサポイン指定に係る要請文書の作成に当たっては、関東経済産業局等の指導を参考とするとともに、「サポイン法」、サポイン法元である「塗装技術」が指定されている「ものづくり基盤技術振興法・同政令」を再チェックし、漏れがないか確認すること。

① 書類に記載する文言は一字一句確認を何度も行うこと。

- ・文章や人名、場所などは誤記がないよう確認すること。
- ・また、文章は分かり易い表現を使用すること。
- ・専門用語には解説を付すこと。

② 裏付け

- ・記載した内容は全て説明できるようにすること(裏付資料等を用意)。
- ・安易に他を借用しないこと。

③ 掲載する情報

- ・新聞、業界紙、ネットなどの記事を資料として使用する場合は、分かり易く要約したものを用意しておくが良い。

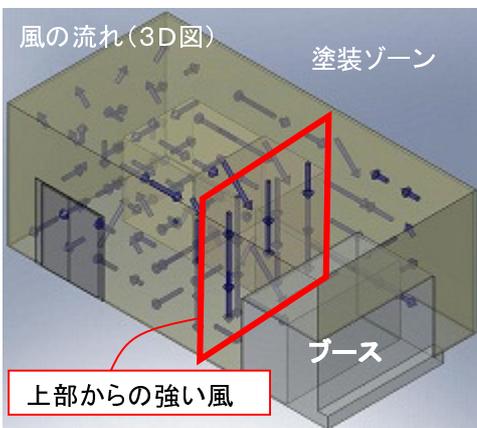
など書類提出となった場合には、かなりのワーク量となることを覚悟しておく必要が分かった。

2. ゴミ・ブツ対策活動

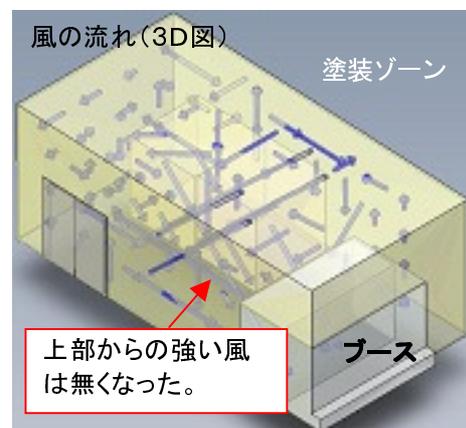
(1) 3D グラフィックによる偏向板設置の評価

アネスト岩田(株)杉山氏から、塗装ゾーン内風向測定結果について、3D グラフィック(風向立体ベクトル図)を作成し偏向板設置の効果が報告された。

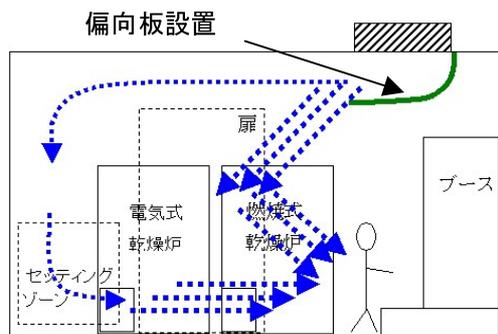
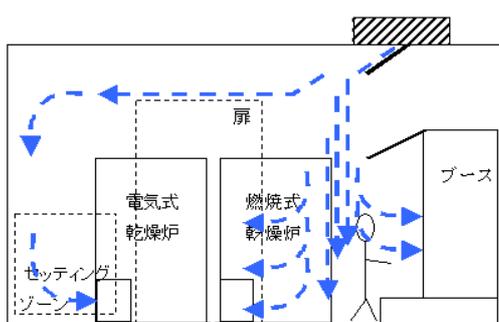
対策(偏向板設置)前



対策(偏向板設置)後



塗装ゾーン側面図によるエアの流れ



偏向板設置後は、ゾーン内の流速が速まった部分はあるものの、ブース上部からのダウンエアが完全に無くなり、ブース正面(塗装作業者の真後ろ)から流れ込む方向に変わり、スプレー作業場所の気流が改善されたことが報告された。この気流改善とゾーン清掃の効果を定量化するため、実際の検査結果データとの関連付け検証を行い、セミナーにて発表を予定する。その効果についての表現は、第一塗装工業(株)にて金額換算あるいは歩留り低下、または直行率向上として示すよう工夫する。

(2) 今後の取り組み

- ① 2月26日(土) 10:00～ 第一塗装工業(株)での検査基準ランクABCの振り分け作業内容の再確認。
[担当: 早川氏、窪井氏、杉山氏]
セミナーではモデル工場の製品検査の厳しさを紹介し、対策の必要性と効果を関連付ける。
- ② 2月26日(土) 13:00～17:00 サンプル塗装板付着のゴミ・ブツ検証作業実施。
坂井研究所にて蛍光 X 線分析(XRF)とマイクロスコープを用いて付着したゴミ・ブツの分析を実施する。
[担当者: 坂井氏、(株)桂精機製作所 澤井氏、東和酵素(株)守屋氏]

3. VOC対策セミナー計画

セミナー開催に向け開催場所、日程、参加費、講演タイトルと講演者について決定した。

(1) VOC対策セミナー企画運営

項目	内容	検討事項・備考
テーマ	塗装の環境技術セミナー	次回決定。
日時	2011年6月15日(水) 時間13:00～17:00	日本工業塗装協同組合連合会理事会も同場所にて開催する方向とした。11:30までに終了。
場所	日本ペイント(株)東京事業所	
参加者目標	150名	最低120名の参加が得られるように活動する。
参加費	3団体会員:3500円 一般:5000円	3団体 日本工業塗装協同組合連合会 日本塗装機械工業会 日本パウダーコーティング協同組合
テキスト	PPを印刷したものとする。	塗料報知新聞社にて印刷。有馬へ印刷の見積もりを依頼し関係者へメールにて連絡。編集まとめ担当: 島田。

(2) 講演タイトルと講演者

9つの候補から6タイトルに絞り込み、講演順と講演者の仮決めを行い、セミナーの骨子を完成させた。

セミナー冒頭に挨拶を5分。基調講演、特別講演を30分。各講演は発表30分、質疑応答10分、途中休憩を15分とし、合計240分(4時間)と決定した。

項目	講演順・発表テーマ(仮)	講演者(仮)	検討事項・備考	時間	
挨拶	セミナー実行委員長 窪井氏			5分	
基調講演	①サポーティングインダストリー	関東経済産業局	サポーティングインダストリーの紹介 講演依頼担当: 窪井氏	30分	
特別講演	②地球温暖化シミュレーション	JAMSTEC 渡邊局長	JAMSTEC((独)海洋研究開発機構) 地球規模の環境破壊に関する講演。 JAMSTECへの調整担当: 内山氏	30分	
講演	③ゴミ・ブツ削減の成功事例	アネスト岩田(株) 杉山氏	環境技術分科会活動テーマの報告。	40分	
	休憩				15分
	④CO ₂ 削減と乾燥炉	(株)桂精機製作所	乾燥炉とCO ₂ に関連した講演。	40分	
	⑤夢の粉体塗装	山王(株)高橋氏	環境対応型粉体塗料及び塗装。 講演依頼担当: 澤居氏	40分	
	⑥サポーティングインダストリーへの取組	(地独)東京都立産業技術研究センター 木下氏	塗装のサポーティングインダストリー認定へ向けた工業塗装高度化協議会の活動。	40分	

※閉会のあいさつは無し。

(3) セミナー実行委員メンバーの決定

- ・実行委員長 : (有)久保井塗装工業所 窪井氏
- ・実行委員 : (株)小泉塗装工業所 小泉氏、日本工業塗装協同組合連合会 倉持氏、
日本塗装機械工業会 平野氏、東和酵素(株) 内山氏、塗料報知新聞社 有馬氏、島田

(4) セミナー運営担当者

- ・総合司会 : 小泉氏
- ・座長 : 島田
- ・セミナー当日の機材操作担当 : 日本ペイント(株)へ依頼。依頼担当 : 平野氏
- ・受付 : 有馬氏、東和酵素殿へ受付 2 名参加の協力を依頼する。依頼担当 : 島田
- ・案内状送付(会員向け、前回セミナー参加者向け)会計他。担当 : 倉持氏、窪井氏
- ・報道関係者への発信。担当 : 有馬氏 (案内状作成担当: 平野氏、島田)
- ・詳細確認項目を作成し、セミナー実行委員メンバーへ配布する。担当 : 島田

(5) 講演料

JAMSTEC 殿への講演料のみ 2 万円を計上する方向で調整する。

(6) 概略日程スケジュール

3 月 24 日にセミナー開催案内など関連団体や報道向けの発信を整え、同時に講演者の確定する。
各講演依頼の担当者は次回までに講演の打診と確認を行うこととする。

月	12	1	2	3	4	5	6
概要	第二検討 計画策定 講演者決め	→	開催日決定 会場決定 講演者決定	→	宣伝開始 準備開始	→	要旨集完成 PPT メ切 前日準備 開催

(7) 次回予定

- ・詳細確認項目をセミナー実行委員へメールにて送付し、関係者にて内容を確認し次回協議する。
- ・審議事項が多くなるため、5 月まで毎月セミナー実行委員会を 10:00~12:00 に開催する。
- ・次回は、講演タイトルと講演者の決定、要旨集作成費と作成日程、全体予算と費用の確認を行う。

4. 次回予定

(1) 第 31 回 環境技術分科会

2011 年 3 月 24 日(木) 13 時 ~ 17 時 塗料報知新聞社会議室

< 予定議題 >

- ① ゴミ・ブツ対策活動 : データ分析結果、蛍光 X 線分析結果の報告と協議。
- ② サポイン 21 部会 : 収集事例の確認
- ③ セミナー実行委員会報告

(2) セミナー実行委員会

2011 年 3 月 24 日(木) 10 時 ~ 12 時 塗料報知新聞社会議室

————— 以 上 —————